

二宮町内での住宅用火災警報器による奏功事例のご紹介

事例発生日月		奏功事例の内容
平成 24 年	1 月	深夜、共同生活を営む寮で住宅用火災警報器の鳴動音で目覚めた入居者が、他の入居者を起床させるとともに、消火器で火災を消し止めボヤ火災で済んだ事例
		5人で共同生活を営む寮において、建物の1階で就寝中だった入居者の男性が、深夜に住宅用火災警報器の鳴動音で目覚め、音の原因を探っていたところ2階の一室から煙が出ているのを発見したため、他4名の入居者に声をかけて起床させ、全員で消火器を使って消火したことで“ボヤ火災”で済んだ。
平成 25 年	10 月	住宅に設置された住宅用火災警報器の鳴動音に隣人が気づき 119 番通報を行ったことで鍋の空焚きだけで済んだ事例 早朝、自宅の屋外で住宅用火災警報器の鳴動音に気付いた女性が音のする方向を確認すると、留守中の隣家から白煙が出ているのを発見し、いち早く 119 番を行ったことで、駆け付けた消防隊により鍋の空焚きが確認されたものの建物への延焼が阻止できた。
	11 月	共同住宅に設置された住宅用火災警報器の鳴動音に隣室の住人が気づき 119 番通報を行ったことで鍋の空焚きだけで済んだ事例 正午頃、共同住宅で、隣室に設置されている住宅用火災警報器の鳴動音に気付いた女性が、いち早く 119 番通報をしたことで、駆け付けた消防隊により鍋の空焚きが確認されたものの建物への延焼が阻止できた。
平成 27 年	4 月	高齢者の一人住まいの住宅に設置された住宅用火災警報器の鳴動音に隣人が気づき、119 番通報を行ったことで鍋の空焚きだけで済むとともに、家人が自主避難し無事だった事例 夕方、住宅内の台所において調理中だった高齢の女性が、誤って食材を加熱し過ぎて多量の煙を発生させたため、住宅用火災警報器が作動し、その鳴動音を聞きつけた隣人がいち早く 119 番通報をしたことで、駆け付けた消防隊により鍋の空焚きが確認されたものの建物への延焼が阻止できたとともに、家人が若干煙を吸い込みながらも、隣人の声掛けで自ら避難し無事であった。
	10 月	高齢者が調理中にその場を離れてしまい、住宅に設置された住宅用火災警報器の鳴動音により気づき、消火器で火災を消し止めボヤ火災で済んだ事例 夕方、調理中であつた高齢の男性が、ガスグリルの火をつけたままその場を離れテレビを観ていたところ、住宅用火災警報器が鳴動したため台所へ駆けつけると、部屋中に煙が充満し、グリルの排気口から炎が立ち上がっていた。鳴動により気づいた家族が街頭消火器を取りに行き消火を行い鎮火となった

ここでご紹介したような奏功事例は、全国で多数報告されており、火災による死者数も年々減少傾向となっています。

住宅用火災警報器の設置は、法律で定められた義務です。 設置されていない住宅は、速やかに設置をしてください。

また、地域ぐるみで設置を推進していくため、集会などで積極的に住宅用火災警報器の話題を取り上げていくようにしましょう。